

会長挨拶

うちの園・学校の動物飼育と教育課程に期待

宮下英雄

全国学校飼育動物研究会第6回の開催に当たりお茶ノ水女子大学子供発達教育研究センターの多大なるご支援、ご協力をいただきましたことに感謝を申し上げます。

本研究会は、学校、幼稚園、保育園での動物飼育を通して子供たちの他を思いやる心や、生命を大切に育て、情愛豊かな子供の育成を目指して、実践的な活動を積み重ねて参りました。その過程におきまして、獣医師の方々の専門的なご指導をたくさんいただきました。動物の世話を一生懸命するが、子供や学校の先生方では、解決が困難な場合がございます。動物の食欲がない、動かなくなった、ぶるぶる震えている、死にそうだと心配する子供たちにとって、獣医師の先生方の診察や治療、アドバイスは、神様のように見えると語っています。

動物飼育を介在にして、確かに子供の心が癒され、優しさのある豊かな心に変わります。その変容については、会誌「動物飼育と教育」の5号までに、研究発表を通じた実践事例が報告されています。詳細については、会誌あるいは緑書房から発行いたしました実践事例集「学校・園での動物飼育の成果～いのち、心、脳を育む～」をご覧ください。

しかし、実践事例を通して論議をする中で、動物飼育体験といいながら、学校によって、あるいは学年によって、飼育に対する考え方、飼育の方法に大きな違いがあり、著しい温度差のあることが分かってきました。

飼育活動を通して、大きな教育的な価値の存在を理解しながら、学校全体としての取り組みが得られていない、動物好きな熱心な先生や校長先生や地域の獣医師の先生方との連携に支えられて、実践と成果を積み重ねている現状が見えてきました。

その解決策は、動物飼育活動を学校全体の教育活動に位置づけ、動物好きな一部の子供や熱心な先生の情熱に支えられるだけでなく、意図的、計画的に動物とのかかわりを日常の教育活動に組み込むことが大切です。

そのためには、学校の教育活動全体に関わる教育計画の柱である教育課程の中に、動物飼育の意義と活動内容、実施方法などを明確にし、その運営と実施にあたるのが重要課題になってきます。教育課程とは、「学校教育の目的・目標を達成するために、各教科・道徳・特別活動の内容、またその他の教育活動内容を精選・整理し、学年に応じ授業時数との関連において、総合的に組織し構成した教育計画である。」とされています。また、学校教育法施行規則に、各教科等による編成や授業時数の標準、学習指導要領の基準性等が具体的に規定されています。学習指導要領の総則においては「学校においては、法令及びこの章以下に示すところに従い、児童の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び心身の発達と特性を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとする。」と記述されています。

このことから分かるように、教育課程は、各学校が編成するものであり、それは校長の責任におい

て全教職員の協力によって編成するものと言えます。同時に、地域や学校の実態、児童の心身の発達を十分に考慮して編成にすることを意味しています。このことは、学校の特性を生かし、児童の実態に即した最適な教育課程の編成が求められているということです。ですから、学校の特性、児童の実態から、また、教育的な効果を期待し動物飼育を教育課程にしっかり位置づけ、教育課程を編成、実施する努力がなされれば動物飼育の温度差解消になると考えています。

今回の研究大会テーマを「うちの園・学校の動物」—教育課程と飼育—と設定しました理由はここにあります。発表事例を参考にされまして、動物飼育の価値を確かなものにして欲しいと考えます。

発表事例には、学校・園全体での取り組み事例、委員会活動や学年飼育に位置づけ、その学年になったら動物と関わることができるという夢や目標を持たせようとしている事例、動物飼育の対象をウニの発生、メダカ、カブトムシ、酪農体験に広げ生命の実感、飼育動物と関わることの意味づくりを強化しようとした事例、動物介在を積極的に実施継続されている高校生のふれあい動物実践、など等があります。学校等の地域特性、園児・児童の実態等を考慮された学校課題解決への意気込みを強く感じさせられる実践事例として高く評価されます。

また、教育委員会、学校等が一体となって動物飼育を通して命の教育を推進しようとしている事例につきましても、各地方自治体の指導行政に同じように早く浸透させたいという思いと願いが生じます。最後の発表になりました「統計的な解析から動物飼育と子供の優しさの変容」に関する発表は質の高い発表であり、これからの本研究会の研究発表にひとつの方向性を示してくれたと感じています。

ご講演をいただきます白梅学園大学学長であられます無藤隆先生に置かれましては、中央教育審議会、教育課程審議会等々にて、中核的にお仕事をされ、日本の教育をリードされている先生でございます。戦後60年が経過し、初めて教育基本法が一部改定されるとともに、新しい教育課程の基本方針、学習指導要領の内容が拝察できる時期になりました。本日は、教育課程と飼育について、新しい情報も踏まえながらご講演をいただきますようお願いを申し上げます。

最後になりますが、本日も頭発表、パネル発表、総合討論をいただきます皆さま方に感謝を申し上げますとともに、早朝から、ご参会いただきました皆様方にお礼を申し上げます。また、ご後援をいただきました文部科学省、東京都教育委員会、日本獣医師会をはじめ多くの関係機関、関係各位に感謝を申し上げます。

この世に一度だけ生命を受けたもの同士である人間と動物とのふれあいの大切さを実感した子供たちは、友達の気持ちが分かる、いじめをしない子供に成長することを信じています。ということ宣言してあいさついたします。

(聖徳大学人文学部児童学科教授)